

# 明治維新150年

## にし あまね 西 周の訳語でたどる

啓蒙思想家(津和野出身)

政治の実権が江戸幕府から新政府に移った150年前、近代化の礎を築いた偉人がいた。津和野出身の啓蒙思想家・西周(1829~97年)。現代の私たちのように、当たりの前に知っていたわけではない。西洋の概念を解釈し、訳語を作った。Philosophy「哲学」、Mechanical Art「技術」といった数々の言葉は今も生き続け、私たちの思考や成長を助ける糧となっている。

生まれ育ったのは津和野盆地。「山のかなたに広がる世界」に憧れたであろう西は、幼少期から学びへの意欲をみながせ、津和野藩の藩校・養老館で漢学や蘭学の素養を吸収した。外界を見るため脱藩し、1862(文久2)年、オランダへ留学。図らずも最先端の学問の中に身を投じた。

新政府で国家の形成に深く関与したのに加え、福沢諭吉らと「明六社」を結成し、訳語と共に、近代思想を広く普及させた。

西周研究に取り組む島根県立大の井上厚史教授(日本思想史)は「核心的な部分を理解した訳語は、中国や韓国でもそのまま使っている。いかに西が欧州の言葉の神髄を理解したかを証明している」と評価する。

これらの言葉の力で、日本人は夢を描き、新たなモノを生み出していった。その物語はこれからも引き継がれていく。

(鎌田剛)

# 理想

# つなぐ夢

# 感性

# 体験

# 哲学



西周の肖像写真(左上)島根県津和野町郷土館蔵)と旧居(津和野町後田)



島根県津和野町の公営英語塾「HANKOH」で学ぶ津和野高校の生徒(森山郷雄撮影)

### 第4部

郷土に受け継がれる想い 72、73  
 山陰が生んだ偉人たち 74、75  
 不昧没後200年 功績に光 76、77  
 維新150年歴史すごろく 80、81

三瓶山 新たな魅力発見 83  
 今年は大山開山1300年 84、85  
 島根が誇る現代の匠たち 88、89  
 山陰中央新報